

【E部門】

さとからまちへ
プロジェクト

助成団体

DFM（認知症フレンドリーまちだ）



be Orange



活動の様子

| 活動内容

放棄竹林の整備と竹製品の製作及びワークショップの開催や製品の展示を通じて、普段認知症について触れる機会がない幅広い世代に対して、認知症のあり・なしに関わらず住み慣れた地域でともに暮らし続けることの心地よさについて知っていただくことを目的としました。

認知症当事者が多摩丘陵北部丘陵での竹林整備・里山保全を行いながら、切り出した竹を使った竹灯籠等を活用して、町田市内の様々なビジネスセクターや市民に働きかけを行い“さとからまちへ”“まちからさとへ”と循環しながら日常の生活に認知症の知識や、認知症当事者の思いを知って頂き、特別ではないことを発信しながらまた楽しみながら、生活の延長線上に「認知症とともに生きるまち」を感じていただくことが出来ました。

｜活動実施による効果

(地域への影響や認知症当事者の方の変化など)

【認知症当事者の変化】

基金を活用する前は、ドリルしかない状況であった。基金で様々な電動工具を購入活用することにより竹林整備の効率化や竹製品の制作についてクオリティが上がり当初ワークショップでは500円/1人の価格も2000円/1人で行う事ができた。自身の作品に展示だけではなく販売について自信が得られていると感じる。

【地域への影響】

ワークショップを複数回開催する事により町田市内で露出が増え、前見えて今回は参加したくて来ました！！や実際に放棄竹林に来ていただいて作業を共にして頂く方が増加している。また様々なステークホルダー（特に企業）の方にこの放棄竹林と認知症の方の働く事について知って頂ける機会が得られている。

| 助成金の使用実績

助成額：300,000円

器具購入費・・・・・・・・・・140,000円

消耗品費・・・・・・・・・・60,000円

場所レンタル費・・・・・・・・70,000円

講師・スタッフ謝礼・・・・・・・・20,000円

合計・・・・・・・・・・290,000円